



人間は終末期を迎えて死に至る。しかし、誰しもがそうとは限りません。

終末期の無い死。それが突然死です。WHOの定義では、健康に見える人が急激に(発病後24時間以内)死に至ること、とされています(交通事故や災害などの外因死は含まれず)。

突然死は、総死亡率の2割近くの人に起こるとされています。その約半数は、虚血性疾患などによる心臓突然死です。その他、脳血管疾患や呼吸器不全による場合もあります。

5人に1人に近い割合ですから、決して他人事ではありませぬ。当連載でも、俳優の大杉漣さん(2018年死去、享年66)や、木内みどりさん(19年死去、享年69)など、毎年何人かの突然死を取り上げています。しかし、今日は自分が死ぬ日かもしれない

244 芥川賞作家 西村賢太



と考える人が、一体どれほどいるでしょうか。毎日、そんなことを恐れて生きるほうが、よほど心臓に悪いですよ。

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

タクシーに乗車中に体調を崩し、運転手さんが病院にそのまま運びました。蘇生(そせい)を試みましたが、生き返ることはありませんでした。僕は今まで西村さんの小説を読んだことはありません。ごめんなさい。でも、2月2日の読売新聞に西村さんが書かれた石原慎太郎氏への追悼文を、興味深く読んでいました。

家の逝去は、やはり衝撃の度合いが違ふ。これでもう、私が好んだ存命作家は唯の一人もいなくなってしまう。なんとこの追悼文が、西村さんの遺稿となったそうす。相当な酒飲みだったそうすから、もしかしたら、虚脱状態の中で偲び酒を飲み過ぎて体調を悪化させたのかもしれない。そんな西村さんは、「破滅型」とも呼ばれていたようですが、ご本人にとっては、無頼派作家の美学を貫いた「理想の死に方」に近いものだったのではないかと。

石原氏の追悼文を書いた西村氏の追悼文を、高田文夫さんが週刊ポストに書いていました。

〈桃太郎とキジのごとく、石原慎太郎のお供でちゃんと三途の川も渡ったのだらう〉

この人が死んだのなら、俺ももう死んでもいい！そんなふうに思える人がいるのは幸せなことです。しかし、「おいお前、もっと小説を書いてから来いよ」と石原桃太郎に三途の川で叱られているような気がします。

無頼派作家の「理想の死に方」